

# I. 平成22年度 執行方針

## 基本方針

(財)神奈川県スキー連盟、70年の「歴史」と「伝統」の節目の年に当たり、会員、所属団体、加盟団体、協賛各社から多くのご支援、ご協力を頂きまして全てが「無事」に終了しました昨年度事業（記念式典含め）に「感動」を覚え、感謝申し上げます。ありがとうございました。

それらを弾みに今シーズンも「更なる雄飛」のシーズンにしたいと考えております。

又、新役員体制が揃い、新たな時代へと入ったといえます。経済環境にどうしても左右されてしまうスノースポーツですが、全体事業の「ダウンサイジング」「改革」は避けて通れない時代であり、執行部一丸となり、難局を乗り越えて「会員サービス中心」の事業運営を進めてまいります。

### 1. 財政の健全化

- 1) 資金運用の見直しを継続します。
- 2) 加盟団体、所属団体の協力を得ながら、協賛会員の拡充を進めます。
- 3) 冠スポンサーを引き続き募ります。
- 4) 青少年育成の協賛会員の拡充に努めます。

### 2. 組織運営の充実・強化

- 1) SAJ、県体協の動きを見ながら「新公益法人／総務省管轄」移行に取り組みます。
- 2) 組織の在り方を「会員サービス」の観点で見直し、必要あれば更に規約・規程類の整理を進めます。
- 3) 事務局体制含め、新事務所構想の具体性を図ります。
- 4) 地球温暖化問題に理解活動を行いながら、環境問題にも県体協とも連携し積極的（出来るものから、小さな事から）に取り組みを進めます。
- 5) 依然として会員減少が続いております。加盟団体、所属団体と連携を図る中で、その役割を見直し、諸施策を展開します（認定指導員活用、SAK 会員制度の模索等々）
- 6) スキー場、宿舍との連携を強め、会員サービスに努めます。

### 3. 事業運営の改革

- 1) 大幅に事業を見直しましたが、道半ばの感はあります。効率よく事業展開を行えるように努力いたします。
- 2) 一つの会場に事業集中することは好ましくありません。協賛制度を活用しながら、研修会の在り方を研究し、模索・充実して行きます。
- 3) ホームページ、ツール、広報等の更なる充実に努めます。

### 4. 指導員会、他団体との連携強化

- 1) 県総体は名前を変えて、加盟団体とより連携を強めながら今まで同様に開催します。
- 2) 指導員会と連携して共催事業を行います。
- 3) 技術戦、環富士技術戦は10周年の節目の年でもあり、千葉県及び環富士技術選手権大会の当番県の静岡県と連携を密にし、大会を盛り上げていきます。
- 4) 南関東ブロック大会（ボードも含む）は都連、千葉とシニア技術戦は都連と連携します。

### 5. 人材育成への取り組み

- 1) 将来の理事・専門員の育成に努めます。
- 2) 専門員の資質向上に努めます。

## Ⅱ. 総務本部執行方針

スノースポーツの感動を多くの方に体験していただく普及、PR活動を推進します。引続き「財政の健全化」「会員サービスの向上」に努めます。

### 1. 公益法人としての取り組みについて

- 1) 新公益法人会計基準に沿った運営、決算対応を継続いたします。
- 2) 公益法人のディスクロージャー、個人情報保護の実行を徹底いたします。
- 3) 新公益法人化は諸団体の状況を確認しながら移行への対応をいたします。

### 2. 収支均衡予算案、税対応、長期財政の安定、会計事務運営について

収支均衡予算案としました。

- 1) 行事や協賛収入の増加策に努めます。
- 2) 基本財産・積立金等の運用をいたします。
- 3) 思い切った支出の削減などを検討し、連盟の活動を支える財源の確保、長期財政の安定について努力いたします。
- 4) ハンディキャップ事業他の資金を確保する為、各種補助金の活用を行います。
- 5) 会計事務所の活用を継続します。

### 3. 会員、協賛会員の拡大について

会員減少の歯止めは、SAK会員制度の検討を含め、各所属加盟団体との連携強化が必要となります。

- 1) ジュニア、中高年層への働きかけを強化いたします。
- 2) 協賛会員（企業）からの援助は大きな柱で拡大に努めます。
- 3) 賛助会員からのご支援を引き続きお願いいたします。
- 4) 一部事業の公募を行ないます。

### 4. 会員サービスの向上

会員登録を8月から順次対応し会員証をシーズン前にお届けできるようにいたします。各所属加盟団体のご協力をお願いいたします。

- 1) 電子申込の改善、拡大推進を行います。
- 2) ホームページやマスメディアでの情報公開、積極活用を進めます。
- 3) カレンダー委員会により年間事業の横断的な調整、効率化を促進します。

### 5. 普及振興事業の推進

- 1) ハンディキャップの方々にもスノースポーツを感動体験していただけるよう事業展開いたします。
- 2) ジュニア事業は、指導員会及び所属加盟団体と連携をとりながら、子供たちの体験拡大をサポートしていきます。
- 3) 北海道事業は参加者のニーズに細かく対応し、多くの方々の参加を目指します。

### 6. その他

- 1) 「新事務所構想」については、物件取得の手続きを明確化いたします。

平成22年度 総務本部事業予定

| No | 行 事 名         | 期 日            | 会 場 (予定) |
|----|---------------|----------------|----------|
| 1  | 夏季評議員会 (第23回) | 平成22年7月31日 (土) | 県社会福祉会館  |
| 2  | 手続き要領説明会      | 平成22年9月04日 (土) | 県社会福祉会館  |
| 3  | 春季評議員会 (第24回) | 平成23年5月28日 (土) | 県社会福祉会館  |

### Ⅲ. 教育本部執行方針

昨年度、SAJの教程改訂があり、「自然で楽なスキーのすすめ」が提案され、研修会の中で伝達を図りました。また、現行の公認指導員、準指導員に、新たに認定指導員制度が加わり、これらの改訂に伴い検定の内容が大幅に変わり、養成講習会、検定会の中で積極的に取り組みました。今年度は引き続きこれらの改訂の内容を研修会、養成講習会等の中で伝達を図って参ります。また、会員にスノースポーツの楽しさ、満足感を味わってもらうため、より一層の事業内容の充実に努めて参ります。

以下、具体的な取り組みについて提案いたします。

#### 1. スキー事業運営

##### 1) 指導員研修会について

- ①新教程の内容の理解が深められるよう伝達を図ります。また、様々な研修会会場を参加者が選択できるようにすると共に認定指導員を含めた研修会の開催を企画します。
- ②研修会実技は通常の研修会に加え、有資格者を対象としたエキスパート講習会（志向別講習会）を継続し活性化を図ります。
- ③神奈川県スキー指導員会との連携を強化します。従来、指導員会が4月に車山で開催していたスキーフェスタバルを車山V行事で共同開催します。

##### 2) 準指導員・認定指導員検定会

養成講習会の内容を更に充実させ、将来の指導員を養成してまいります。

検定制度の改訂による検定種目減に伴う検定会会期の短縮、養成講習会の2日、3日コースの見直しを実施します。また、認定指導員検定は積極的に取り組み、地域活性化のため、この層の指導者を養成して参ります。

##### 3) 強化と大会運営について

- ①全日本スキー技術選手権決勝に進める選手の育成と発掘に取り組みます。  
オフトレーニング、雪上合宿を計画的に開催し、選手の技術力向上に取り組みます。
- ②神奈川県・千葉県スキー連盟共催のスキー技術選手権は、会期を変更し、参加し易い日程とします。また、開会式の前夜開催、白馬システム導入は大会運営改善のために取り入れていきます。
- ③神奈川県、静岡県、山梨県、千葉県スキー連盟共催の環富士山大会は第10回を数え、親睦・技術交流など深めながら、更に参加者を増やすためのPRを各県連と協力しながら行ないます。
- ④東京都スキー連盟主催によるシニア技術選手権大会はシニア層の活性化のため、参加者を積極的に募集して参ります。

##### 4) 地球環境に優しい事業運営について

「地球環境に優しい事業運営」の取り組みは継続して、事業運営中の禁煙/分煙、更に煙草の「ポイ捨て防止」、又、各事業への参加は公共施設の利用、車の相乗り等の協力を呼びかけて参ります。

## 2. 安全対策活動

現在、スキー人口やスキー場は減少傾向にありますですがケガ人は減っていないのが実情です。安全対策委員会は安全意識向上の目的で実施してきた理論・雪上での啓蒙活動は今年も実施し、指導者により役に立つ知識と技術が伝達できるように努めます。

新たな取り組みとして、今シーズンは判例を元に施設・主催者・参加者がどのように絡んで事故が発生しているのかを分析し、主催者、指導者、参加者の立場でどうすれば予防できるのかを「見ればわかる」の形でまとめていきます。

目まぐるしく変化する大自然の中で安全で楽しみながら上達するため、安全対策委員会として指導者のサポートに取り組んで参ります。

## 3. スノーボード事業関連

- ①昨年度改訂された SAJ 規約・規定に合わせたカリキュラムを設定し、引き続き、参加者のレベル向上となる行事を行ってまいります。
- ②レベルアップ、エキスパートでは、効率よく短期間の講習で大きな成果が得られるような内容で進めてまいります。
- ③養成講習会においては、新種目を理解しやすい講習内容を設定して伝達します。新資格の認定スノーボード指導員養成講習については、特に初心者への技術伝達が確実にできるような内容とします。また、検定会日程は全日本行事の日程と重なるため、会期を変更し車山皿行事と同じ会期で開催します。
- ④研修会においては、新教程の内容の理解を深められるよう伝達を行い、参加者が指導の場においてフィードバックできる内容とします。
- ⑤技術強化においては、技術レベルアップした参加者が増加しました。引き続き大会で上位に入れるよう、高い滑走技術が大会で発揮できるトレーニング内容を提案して参ります。

## IV. 競技本部執行方針

経済および教育環境などに見られる社会情勢の悪化は、様々な分野に影響を及ぼしており、そのことはスポーツ界においても例外ではありません。競技本部が展開している各事業においてもその影響は否定できません。

しかし、厳しい社会情勢であるがゆえに、社会に及ぼすスポーツの恩恵に対する期待が一段と大きくなっていることも事実です。我々はどのような社会情勢の中であっても、スキーの健全な普及に対して努力を惜しまず、スキー界の発展を目指さなければなりません。そこで、社会情勢を見極めながら、競技本部は以下3項目を基本方針とします。

### 1. 環境問題と健全な青少年の育成

スノースポーツと環境問題は決して切り離すことはできません。地球温暖化問題についてはSAKの基本方針に照らして、「出来るものから」「小さなことから」を展開し、取り組んできました。今期は、この考え方を更に進め県体協とも連携し「ストップ地球温暖化」のキャンペーンも取り入れながら積極的に展開してまいります。

また、健全な青少年の育成についても、ここ数年のジュニア選手増加に伴い、県体協等と連携しながら、地域のクラブチーム、学校クラブの指導者と連携し、技術指導に留まらず、スキーを通して「心の豊かな選手」育成にも力を入れていきます。

### 2. 選手強化

「世界に羽ばたく選手の育成」は競技本部の最大の目的であり、継続して取り組んでいかなければならない課題です。特に、ジュニア選手を対象とした「スキータレント発掘」は、スキー界発展に対して大きな影響力となります。その目的達成に、クラブチームや学校クラブの果たす役割は大きいことから、加盟団体の指導者育成を推進するとともに、指導者との連携を強めることで、指導体制の確立と活性化に努めます。

競技会も選手強化の場と考え、国体選考会（戸倉3連戦）会場を難易度の高い尾瀬戸倉に変更して5年が経過しました。この間、選手全体の競技力向上が着実に認められ、国体においても全体の成績が上がってきました。しかし、選手強化学業は経費もかかることから、スポンサーシップの導入などの財源確保に努力します。

### 3. 事業運営と組織強化

競技参加者の減少とともに財源の確保が厳しくなっていますが、予算を削減することで安全を疎かにすることはできません。昨年より取り組んできました保護者対象の競技本部サポーターシップを、さらに充実させて安全を最優先した競技会の運営に努めます。

また、競技本部の組織機構を見直し、組織の強化に努めると同時に、指導者の育成に力を入れ、将来安定した組織運営ができる体制づくりに努めます。

昨年度より「エコ運動」の取り組みと運営経費の削減を目的に、携帯モバイルサービスを実施してきました。そこで、本年度はさらにサービスの充実を図り、「エコ運動」、「経費の削減」、「会員サービス」に努めます。

### 4. 県総合体育大会について

県総体は名前を変えて、加盟団体とより連携を強めながら今まで同様に開催します。